

2015.6.28 聖別会

IMMANUEL

インマヌエル
中目黒キリスト教会
聖別会マンスリー



2015年

< 聖化の豊かさを味わう > 「聖化の説教」
「のがれの町に表された神のみ思い」
フリーメソジスト小金井教会・宮川浩二牧師

「その者は会衆の前に立ってさばきを受けるまで、あるいは、その時の大祭司が死ぬまで、その町に住まなければならない。それから後、殺人者は、自分の町、自分の家、自分が逃げて来たその町に帰って行くことができる。」 (ヨシュア 20:6)

カナンへの定住と同時に、「のがれの町」制度が実施された。これは罪と恵みの両方を示す

1. 故意と過失の罪の区別

- ・ 律法は、故意に犯す罪と、過失で犯してしまう罪を区別する。
- ・ 過失致死に対処する方法が「のがれの町」である。その人は、「のがれの町」に留まる限り復讐されることはない。ただ、その町に拘束されるという形での懲罰は受けねばならないが・・・。
- ・ その町はヨルダン川の東西に三つずつ設けられ、どこからでも一日で辿りつける位置にあった（下の地図参照）。



2. よく分からないで犯した罪との区別

- ・過失の罪は故意の罪から区別され、減免される。
- ・新約においては、故意と思われる罪すらも、過失のように見なされて、赦しを与えられるケースがある。十字架の上の主の祈り(ルカ 23:34)、石打ちに遭って最期を遂げたステパノの祈り(使徒 7:60)がその例である。サウロ(パウロ)は、それにより神の憐れみを受けた(1 テモテ 1:13)。

3. 罪の中心としての憎しみ

- ・罪の本質は憎しみである(ヨシュア 20:5)。憎しみは殺人と見なされる(マタイ 5:21-26)。
- ・人間の憎しみは、神に対する主導権争いという形で起きる。神に主導権を明け渡すとき、罪は赦され、きよめられる。
- ・人に対する憎しみについては、潜在的なものがあり、解決が簡単ではない。
- ・神との関係が正されると、人との関係も正される方向に向かう。
- ・のがれの町の規定では、殺人の罪が解かれるのは、大祭司が死ぬ時である(ヨシュア 20:6)。
これはキリストの贖いを示唆している。
- ・のがれの町の規定は、「私たちの罪を何とか赦そうとする神の思いが反映されている。」